



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成22年11月1日

上場会社名 ラサ商事株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3023 URL <http://www.rasaco.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井村 周一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長 (氏名) 大岡 隆 (TEL) 03(3668)8231  
 兼本社ビル企画推進室長  
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日 配当支払開始予定日 平成22年12月3日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(法人向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の業績（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

(1) 経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	11,392	8.6	256	6.6	259	9.4	138	3.5
22年3月期第2四半期	10,492	△44.6	240	△47.3	237	△48.2	133	△39.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	11.89	10.50
22年3月期第2四半期	10.82	9.61

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	12,706	7,447	58.6	665.49
22年3月期	15,099	7,630	50.5	633.66

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 7,447百万円 22年3月期 7,630百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
23年3月期	—	4.00			
23年3月期(予想)			—	6.00	10.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	23,000 0.6	950 7.7	950 5.7	530 31.5	46.32

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期2Q	12,400,000株	22年3月期	12,400,000株
23年3月期2Q	1,208,390株	22年3月期	358,326株
23年3月期2Q	11,655,923株	22年3月期2Q	12,374,474株

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

1. 本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

なお、業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 平成22年10月19日付で、「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしております。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報.....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報.....	3
2. その他の情報.....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	3
3. 四半期財務諸表.....	4
(1) 四半期貸借対照表.....	4
(2) 四半期損益計算書.....	6
【第2四半期累計期間】.....	6
【第2四半期会計期間】.....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書.....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記.....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	10
4. 補足情報.....	11
(1) 生産、受注及び販売の状況.....	11

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における我が国経済は、企業業績に改善が見られ設備投資は持ち直すなど、自律的な回復に向けた動きも見られましたが、このところの経済環境は再び厳しさを増し、海外景気の下振れ懸念や円高要因などにより、引き続き厳しい状況が予想されます。

このような経済環境のもとで当社は、営業活動の積極的な展開と経営効率の向上を図るよう努めました結果、売上高は、113億92百万円となり、前年同四半期に比べ8億99百万円（8.6%）の増収となりました。

資源・金属素材関連では、新興国経済の回復に伴い、製鋼原料などの価格が上昇したため、関連部門の売上高は、75億95百万円となり、前年同四半期に比べ11億18百万円（17.3%）の増収となりました。

産機・建機関連では、国内設備投資の改善が見られ、民間企業向け各種ポンプ類の販売が一時的に回復の動きはあったものの、その後は伸び悩み、関連部門の売上高は、31億57百万円となり、前年同四半期に比べ41百万円（△1.3%）の減収となりました。

環境設備関連では、国内設備投資の改善により、環境関連商品が好調に推移しましたが、大型の水砕スラグ製造設備の完工物件が無く、関連部門の売上高は、6億37百万円となり、前年同四半期に比べ1億76百万円（△21.7%）の減収となりました。

損益面では、売上総利益が16億84百万円となり、前年同四半期に比べ7百万円（0.5%）の増益、営業利益は2億56百万円となり、前年同四半期に比べ15百万円（6.6%）の増益、経常利益は2億59百万円となり、前年同四半期に比べ22百万円（9.4%）の増益、四半期純利益では1億38百万円となり、前年同四半期に比べ4百万円（3.5%）の増益となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末の総資産は、127億6百万円となり、前事業年度末に比べ23億92百万円減少しました。

#### (資産)

流動資産は、85億20百万円となり、前事業年度末に比べ27億24百万円減少しました。これは主に、現金及び預金で9億64百万円、受取手形及び売掛金で12億56百万円、商品及び製品で4億70百万円の減少等によるものです。

固定資産は、41億85百万円となり、前事業年度末に比べ3億31百万円増加しました。これは主に、本社ビル建設着手金3億6百万円の支出等によるものです。

#### (負債)

流動負債は、30億58百万円となり、前事業年度末に比べ12億57百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金で8億67百万円、未払法人税等で2億11百万円、短期借入金で1億18百万円の減少等によるものです。

固定負債は、21億99百万円となり、前事業年度末に比べ9億52百万円減少しました。これは主に、転換社債型新株予約権付社債で7億75百万円、普通社債で1億10百万円、長期借入金で62百万円の減少等によるものです。

#### (純資産)

純資産は、74億47百万円となり、前事業年度末に比べ1億82百万円減少しました。これは主に、利益剰余金で85百万円増加したものの、自己株式の取得等による2億58百万円の減少によるものです。

#### (キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期末における現金及び現金同等物（以下（資金）という。）は、19億31百万円となり、前事業年度末に比べ9億64百万円減少しました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因については、次のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により発生した資金の増加は、8億29百万円となりました。これは主に、仕入債務8億89百万円の減少、法人税等の支払額2億94百万円の資金の減少等があったものの、売上債権12億57百万円の減少による資金の増加等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により発生した資金の減少は、4億16百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得3億59百万円の減少等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により発生した資金の減少は、13億77百万円となりました。これは主に、転換社債型新株予約権付社債の償還7億75百万円、自己株式の取得による支出3億4百万円、長期借入金の返済1億81百万円等の支出によるものです。

### （3）業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、平成22年10月19日付公表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」を参照してください。

しかしながら、当社の資源・金属素材関連で扱う製鋼原料のフェロニッケルは、LMEニッケル相場の影響を受け、その他商品についても国際的市況の変動により業績に影響を及ぼす可能性があります。また、産機・建機関連で取扱う商品は、国内製造業向けを主体としたものであり、経済動向、設備投資動向の変化により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 2. その他の情報

### （1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期会計期間末の貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変動がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### ②棚卸資産の評価方法

当第2四半期会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

#### ③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費を期間按分して算定する方法によっております。

#### ④繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

#### ⑤税金費用の計算

当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積り実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

### （2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これにより、当第2四半期累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ0百万円減少し、税引前四半期純利益は10百万円減少しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,931	2,895
受取手形及び売掛金	4,415	5,671
商品及び製品	1,876	2,347
仕掛品	29	6
その他	279	338
貸倒引当金	△11	△15
流動資産合計	8,520	11,244
固定資産		
有形固定資産		
貸与資産（純額）	47	58
土地	2,044	575
建設仮勘定	330	1,442
その他（純額）	239	251
有形固定資産合計	2,662	2,327
無形固定資産		
のれん	14	22
その他	69	57
無形固定資産合計	83	80
投資その他の資産		
投資有価証券	588	621
その他	877	849
貸倒引当金	△25	△23
投資その他の資産合計	1,439	1,446
固定資産合計	4,185	3,854
資産合計	12,706	15,099

（単位：百万円）

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,181	3,048
短期借入金	125	244
1年内償還予定の社債	220	220
未払法人税等	93	305
賞与引当金	160	203
その他	277	294
流動負債合計	3,058	4,316
固定負債		
社債	1,280	1,390
転換社債型新株予約権付社債	75	850
長期借入金	281	344
退職給付引当金	522	525
その他	40	42
固定負債合計	2,199	3,152
負債合計	5,258	7,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,854	1,854
資本剰余金	1,612	1,612
利益剰余金	4,379	4,294
自己株式	△370	△112
株主資本合計	7,475	7,647
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△27	△20
繰延ヘッジ損益	—	2
評価・換算差額等合計	△27	△17
純資産合計	7,447	7,630
負債純資産合計	12,706	15,099

(2) 四半期損益計算書  
【第2四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	10,492	11,392
売上原価	8,815	9,707
売上総利益	1,676	1,684
販売費及び一般管理費	1,436	1,428
営業利益	240	256
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	9	13
受取家賃	16	16
その他	3	6
営業外収益合計	31	40
営業外費用		
支払利息	2	4
社債利息	2	10
為替差損	—	17
社債発行費	22	—
その他	6	4
営業外費用合計	34	37
経常利益	237	259
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	1
固定資産売却益	1	—
投資有価証券売却益	—	0
社債買入消却益	19	—
その他	0	—
特別利益合計	20	1
特別損失		
商品評価損	2	3
投資有価証券評価損	—	24
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10
その他	0	0
特別損失合計	2	39
税引前四半期純利益	254	221
法人税等	121	83
四半期純利益	133	138

【第2四半期会計期間】

（単位：百万円）

	前第2四半期会計期間 （自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）	当第2四半期会計期間 （自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）
売上高	6,172	5,483
売上原価	5,084	4,547
売上総利益	1,088	935
販売費及び一般管理費	713	732
営業利益	374	203
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	0	1
受取家賃	8	8
その他	2	5
営業外収益合計	11	15
営業外費用		
支払利息	1	1
社債利息	1	5
為替差損	1	5
社債発行費	22	—
その他	1	1
営業外費用合計	27	14
経常利益	358	204
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	0
投資有価証券売却益	—	0
社債買入消却益	19	—
特別利益合計	19	0
特別損失		
商品評価損	1	1
投資有価証券評価損	—	24
その他	0	0
特別損失合計	1	26
税引前四半期純利益	376	178
法人税等	167	76
四半期純利益	209	102

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	254	221
減価償却費	34	31
のれん償却額	7	7
貸倒引当金の増減額（△は減少）	7	△1
賞与引当金の増減額（△は減少）	△56	△43
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△27	△2
受取利息及び受取配当金	△11	△16
支払利息	2	4
社債利息	2	10
商品評価損	2	3
社債買入消却損益（△は益）	△19	—
有形固定資産除売却損益（△は益）	△1	—
投資有価証券評価損益（△は益）	—	24
売上債権の増減額（△は増加）	1,921	1,257
たな卸資産の増減額（△は増加）	400	443
仕入債務の増減額（△は減少）	△1,316	△889
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10
未払消費税等の増減額（△は減少）	—	101
その他	△75	△41
小計	1,128	1,122
利息及び配当金の受取額	10	16
利息の支払額	△7	△14
法人税等の支払額	△425	△294
営業活動によるキャッシュ・フロー	705	829
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,437	△359
有形固定資産の売却による収入	3	—
無形固定資産の取得による支出	—	△19
投資有価証券の取得による支出	△100	△0
投資有価証券の売却による収入	3	0
貸付金の回収による収入	1	1
その他	△35	△38
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,565	△416

（単位：百万円）

	前第2四半期累計期間 （自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）	当第2四半期累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300	—
長期借入金の返済による支出	△143	△181
社債の発行による収入	900	—
社債の償還による支出	△50	△110
転換社債の償還による支出	—	△775
社債の買入消却による支出	△630	—
自己株式の取得による支出	—	△304
自己株式の売却による収入	—	41
配当金の支払額	△92	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー	282	△1,377
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△578	△964
現金及び現金同等物の期首残高	3,067	2,895
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,488	1,931

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

①自己株式の交付

当社は、平成22年6月29日開催の取締役会決議に基づき、株式報酬型ストックオプション（新株予約権）を発行致しましたが、これに関わる権利被行使により、当第2四半期累計期間において、自己株式150千株（45百万円）の交付を行いました。

②自己株式の取得

当社は、平成22年7月1日開催の取締役会決議に基づき、当第2四半期累計期間において、自己株式1,000千株（3億4百万円）の取得を行いました。

以上の結果、当第2四半期会計期間末において、自己株式は850千株（2億58百万円）増加し、3億70百万円となっております。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

①受注状況

当第2四半期累計期間における受注状況を事業部門別に示しますと、次のとおりです。

事業部門別	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
資源・金属素材関連	7,677	15.0	555	53.0
産機・建機関連	3,768	1.3	1,718	14.5
環境設備関連	637	4.2	1,264	113.7
その他	1	△48.6	—	—
合計	12,084	9.8	3,537	44.1

(注)上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

②販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績を事業部門別に示しますと、次のとおりです。

事業部門別	金額(百万円)	前年同期比(%)	(参考) 平成22年3月期
資源・金属素材関連	7,595	17.3	13,524
産機・建機関連	3,157	△1.3	7,805
環境設備関連	637	△21.7	1,521
その他	1	△48.6	6
合計	11,392	8.6	22,858

(注)1. 主な相手先別の販売実績に対する割合は、次のとおりです。

相手先	前第2四半期 (平成22年3月期第2四半期)		当第2四半期 (平成23年3月期第2四半期)		(参考) 平成22年3月期	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
三菱商事株式会社	4,367	41.6	4,600	40.4	8,181	35.8

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③商品仕入実績

当第2四半期累計期間における仕入実績を事業部門別に示しますと、次のとおりです。

事業部門別	金額(百万円)	前年同期比(%)	(参考) 平成22年3月期
資源・金属素材関連	6,958	17.6	13,221
産機・建機関連	2,034	△6.0	5,323
環境設備関連	266	△19.4	787
合計	9,259	10.1	19,331

(注)上記の金額には、消費税等は含まれておりません。